

初の国際会議で感じたこと

生命体工学研究科脳情報専攻M2 吉元 宏幸



はじめに

平成25年3月5日から7日にかけて、アメリカハワイ州ハワイ島で開催された2013 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing (NCSPP2013)に参加し、研究発表を行いました。

今回の研究発表は、私にとって初めての国際会議での発表でした。また同時に、自身の学生生活最後の研究発表であり、これまで行ってきた研究活動の集大成となるものでした。

私の研究について

私は、グラスキャットフィッシュ

という魚が持つ電気受容器と行動の関連性を調べる研究を行ってきました。電気受容器は、電気に対して敏感に反応する器官です。グラスキャットフィッシュにおいては、電気受容器の反応特性について明らかにされているものの、電気受容器に対する入力、グラスキャットフィッシュの行動とどのように関連するかは明らかにされておりませんでした。そこで本研究では、グラスキャットフィッシュに対する電気刺激実験の結果を解析し、電気受容器の役割を明らかにすることが目的でした。今回の発表の成果は、電気受容器からの入力信号が脳へどのように伝達し処理されて、行動に反映されるかを考えるきっかけになります。

初のハワイ島

今回は自身2度目の海外渡航であり、ホノルルを経由したハワイ島までの長時間の移動に加え、時差も初体験でした。特に時差には苦労し、

発表までの体調維持に慎重になりました。

ハワイ島はハワイ諸島の中で最も大きな島です。キラウエア火山を見たりすることはできませんでしたが、随所でハワイらしい光景を見ることができました。コナ国際空港は屋外となっており、ハワイならではの開放感を味わうことができました。また、至る所で溶岩を見ることができ、火山の影響の大きさを感じ取ることができました。

国際会議での発表により学んだこと

今回初めて英語でのスピーチを行いました。結果として、自身の英語力が足りないことを痛感することになりました。発表自体は自分なりに満足のできるものでしたが、質疑応答では自分の言いたいことを英語で表現することができませんでした。また、英語を聞き取ることができても、それをすぐに理解することが非常に難しく、読み・書きだけでは不十分であり、実際に話し・聞くことで英語力を更に伸ばすことが可能であることを学びました。また、数多くの参加者から刺激を受け、自分も負けずにより頑張らなければならな

いと強く感じました。

おわりに

今回初めて国際会議に参加させていただき、普段できないような数多くの貴重な体験をすることができました。

今回奨学金を援助していただきました明専会及び、研究や論文執筆、発表に対しご指導・ご助言くださった立野勝巳准教授、討論に付き合っ



海を背景にレストランで撮影